



NICU (新生児集中治療室)

Neonatal Intensive Care Unit

小児外科部門 Pediatric Surgery

県内唯一の独立した小児外科診療

当センター小児外科では妊娠中に疑われた胎児の外科疾患に対し、以下の流れで対応しています。

先天異常で紹介を受けた胎児症例は、多くの場合当院産科に母体搬送となります。外来初診時に産科外来にて産科医とともに胎児のエコー診察をさせていただき、ご両親、ご家族に赤ちゃんの想定される病気について簡単にご説明しています。その後、産科・小児科・小児外科合同で周産期カンファレンスを行い、娩出方法・出生時の管理方法・その後の治療方針を検討しています。疾患によっては放射線科医・脳外科医とも協議を行っています。出産時は小児外科医も立ち会い適切な処置を行います。その後当センター NICUに入院し、小児内科医・外科医により手術を受けるための再度全身チェックを行います。手術は多くの場合手術室で行いますが、状態が不安定な症例ではNICU内で手術を行います。当科は九州大学小児外科教育関連施設でありホットラインを通じてリアルタイムの情報交換を行っており、診療レベルを維持しています。また当院はドクターカー、ドクターヘリを有しており、常時手術の必要な新生児の受け入れ搬送に対応しています。



ドクターカー



ドクターヘリ

小児科部門 Pediatrics

先天性疾患や在胎34週以上の早産児の治療を行います

NICUには人工呼吸器、保育器、呼吸心拍モニター、酸素飽和度モニター、超音波診断装置などが備えられ、24時間体制で赤ちゃんの呼吸管理、循環管理を中心とした高度集中治療を行うことが可能です。NICUでは心臓病などの先天性疾患や在胎34週以上の早産児の治療をしています。入院症例の多くは早産児や低出生体重児ですが、好生館の大きな特徴は佐賀県内唯一の独立した小児外科診療を行える施設である点で、佐賀県内の新生児外科疾患の多くが好生館で治療を受けています。産婦人科医、小児科医、小児外科医、看護師による周産期カンファレンスを毎週行って連携を強化し、新生児医療のさらなる充実、発展をめざしています。



医療チーム

周産期母子センターは、産科部門、小児外科、小児科、看護部の各部門が連携したチーム医療を行っています。

- 周産期母子センター
- ・産科部門
- ・NICU (新生児集中治療室)
- └ 小児外科部門
- └ 小児科部門
- ・看護部



周産期母子センター



産婦人科スタッフ



小児外科、小児科スタッフ

周産期母子センター

Perinatal Medical Center



2022.07



地方独立行政法人
佐賀県医療センター 好生館

〒840-8571 佐賀市嘉瀬町大字中原400番地
TEL0952-24-2171 (代) FAX0952-29-9390

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.koseikan.jp/>

好生館

検索



周産期母子センター Perinatal Medical Center



周産期母子センター長
西村 真二

好生館では小児科医、看護師の夜勤体制を整え、新病院開院の2013年5月より新生児集中治療室（NICU）を稼働し、NHO佐賀病院、佐賀大学病院と連携しながら佐賀県内の新生児治療を行っています。2016年度には、佐賀県より地域周産期母子センターに認定されました。生まれてくる赤ちゃんに治療が必要と予想されれば、分娩前に産科に入院していただき（母体搬送）、より高度な分娩管理と出生直後からの新生児集中治療を行います。

診療チームの紹介

- 産科医、小児科医、小児外科医、研修医、看護師、管理栄養士が担当します。
- 高度で多岐にわたる医療を提供するため、麻酔科医やMEセンター、相談支援センターが協力します。

診療の特徴

1. 好生館での分娩のメリットは安心です。夜間の緊急帝王切開など、24時間体制で対応します。
2. NICUには人工呼吸器を整備し、24時間体制で呼吸循環管理などの高度集中治療を行います。
3. NICUでは心臓病などの先天性疾患や在胎34週以上の早産児の診療を小児科医が担当します。
4. 好生館の特徴は外科治療で、佐賀県内では唯一の独立した小児外科があり新生児外科疾患の多くが好生館で治療を受けています。
5. 診療チームの周産期カンファレンスを毎週行って連携を強化しています。
6. 医療相談係、佐賀市・佐賀県の福祉担当者とともに患者様の支援検討会を行っています。



産科部門

Obstetrics

より高度な分娩管理を——

周産期母子センターにおける産科の最も大切な役割は、妊娠中、分娩時の適切な管理によって、生まれてくる赤ちゃんをできるだけよい状態で出生させ、小児科、小児外科による出生後の管理に引き継ぐことです。胎児の異常、妊娠中の合併症などハイリスク症例はもちろんですが、妊娠中に特に問題なく順調に経過していた場合でも、分娩時の急変によって緊急な対応が必要となることも少なくありません。現在、妊娠中の母体合併症や胎児の異常に対して根治が可能な疾患というのは限られています。したがって、母体と胎児の状況を正確に把握し、ベストな分娩時期、方法を選択できること、なおかつ緊急時にはスピーディーな対応が可能であることが分娩施設には求められます。

当科では正常妊娠を含め、妊娠高血圧症候群、切迫早産、前置胎盤などの妊娠合併症や胎児発育不全、多胎などの胎児異常症例まで、急性期総合病院として幅広い症例の取り扱いに対応していますが、特に、胎児の消化管閉塞や卵巣嚢腫など出生後に手術が必要となる可能性がある先天性疾患については、県内唯一の独立した小児外科を設置している医療施設として、他の周産期医療機関からの管理依頼を佐賀県全域からお引き受けしています。逆に当院では管理が難しい症例に関しては、佐賀大学附属病院、NHO佐賀病院等の高次医療施設と密な連携をとることで、相互に協力し合い、佐賀県の周産期医療を支えています。

生まれてくる、赤ちゃんのために——



看護部（5階東病棟・NICU）

Nursing

母児が安心して出産できるために——

周産期母子センターは、5階東病棟20床とNICU10床で構成しています。好生館では、妊婦がどのようなお産がしたいか、家族を含めてパースプランをたて、それぞれにあった出産ができ、産後のケアにつなげています。ハイリスク分娩が年々増加する中、産科・小児科・小児外科の医師とともに妊娠期から分娩に向けて情報共有を行い、いつでも早急な対応ができるような体制をとっています。児の治療を行い、安心して両親が児を迎えることができるよう授乳や沐浴などを通して、育児を習得できるよう支援しています。

